

## 情けは人の為ならず

—京都 kongress (第 14 回国連犯罪防止刑事司法会議) に期待する—

開倫塾

塾長 林明夫

## Q 1 : 京都 kongress とは何ですか。

- A : (1) 2020 年 4 月 20 日(月)から 27 日(月)までの間、京都市の国立京都国際会館で開かれる、第 14 回国連犯罪防止刑事司法会議(14th United Nations Congress on Crime Prevention and Criminal Justice) のことです。
- (2) kongress の起源は、1846 年に第 1 回目が開催された、官民合わせた専門家会合の国際監獄会議(International Penitentiary Congress)です。1950 年までに 12 回開催。その後、国連の会議として継続され、1955 年にジュネーブで第 1 回 kongress が開かれました。この会議は刑事司法関係者の間で「kongress」と通称しているため、開催地の名を冠して「京都 kongress」と呼んでいるそうです。
- (3) kongress は、犯罪対策や刑事司法の分野における国連最大の国際会議であり、5 年に 1 回開催されています。日本での開催は 1970 年の京都開催以来 50 年ぶり、2 回目となります。

## Q 2 : 京都 kongress のテーマは何ですか。

- A : (1) 2030 アジェンダ、いわゆる SDGs の達成に向けた「犯罪防止」「刑事司法」及び「法の支配」の推進が全体のテーマです。
- (2) 京都 kongress の開催に先立ち、世界の若者による犯罪防止・刑事司法に関するフォーラム(京都 kongress・ユースフォーラム)も開催されます。
- (3) サイドイベントも企画されているようです。

## Q 3 : なぜ林さんは京都 kongress を知ったのですか。

- A : (1) 大学時代に刑事政策のゼミに入っていたので、「日本刑事政策研究会(www.jcps.or.jp)」の会員とならせて頂き、広報誌「罪と罰」で京都 kongress の開催を知りました。
- (2) また、昨年 8 月下旬に横浜で開かれた「TICAD VII(第 7 回アフリカ開発会議)」に参加した折に、法務省の京都 kongress のパネル展示で御案内を頂きました。
- (3) 更に、経済同友会での、「情けは人の為ならず～雇用を通じた安全安心なまちづくり」と題する今福章二・法務省保護局長様の講演会でも京都 kongress について教えて頂き、刑事政策を学んだ一人として、参加できるものならぜひ参加させて頂きたいものだとの思いを深くしました。

Q 4 : 学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の皆様にお伝えしたいことは何ですか。

A : (1)折角、5年に1回開催の犯罪対策や刑事司法の分野での国連最大の国際会議が、50年ぶりに日本の京都で開催されるのであれば、ぜひ興味・関心をお持ち頂き、子供たちや先生方の教育に、更には、保護者や地域の皆様への社会教育として最大活用して頂きたいと希望します。

(2)おそらく、この京都 kongress の内容は、3月から4月にかけて新聞やマスコミで大々的に報道されると予想されますので、SDGs教育の一環として御活用頂ければ幸いです。

(3)機会があれば、京都での公開プログラムへの御参加をお考えください。

Q 5 : ところで、「情けは人の為ならず」とは何ですか。

A : (1)持続可能な社会の実現には、経済社会の安定が不可欠であり、それは企業としての学習塾・予備校、私立学校の責務といえます。

(2)経済界全体や、学習塾・予備校・私立学校が、国や地方公共団体とスクラムを組み、刑務所出所者の社会復帰や就労を支援して、再犯防止を図る姿勢が求められています。

(3)具体的には、

① 65歳未満の先生方であれば、保護司のなり手として自ら手を挙げるのが最も望まれます。特に、県庁所在地などを含む、都市部での「保護司」の確保が課題となっていますので、積極的なお取り組みが期待されます。但し、65歳までの方に限るようです。

②お知り合いの事業所で、「犯罪や非行をした人の雇用が可能な事業所」があれば、御紹介を。

③「社会を明るくする運動」や「BBS運動」などへの御協力などです。

\*無理のない範囲でぜひ御検討ください。お問い合わせは、各都道府県の「保護観察所」までお願いいたします。

\*京都 kongress については、日本刑事政策研究会刊の「罪と罰」令和元年6月号と9月号を参照させて頂きました。

Q 6 : 最後に一言どうぞ。

A : 今月も、先生方がお読みになれば参考になると思われる本を、僭越とは存じますが御紹介させて頂きます。

(1)1冊目は、トーマス・L・フリードマン著「バイルートからエルサレムへ、NYタイムズ記者の中東報告」朝日新聞社1993年7月10日刊です。今日の中東情勢の原点を知るのに最適な1冊です。ぜひ御一読ください。

(2)2冊目は、和田茂樹編「漱石・子規、往復書簡集」岩波文庫、岩波書店2002年10月16日刊です。日本経済新聞に昨年より連載中の伊集院静作「ミチクサ先生」を読みながら、この「漱石・子規、往復書簡集」の該当箇所を読み進めると、興味が尽きません。高浜虚子著「回想、子規・漱石」ワイド版岩波文庫2010年1月15日刊や、復本一樹編「子規紀行文集」岩波文庫、岩波書店2019年12月13日刊などを読むと更に面白いと思います。

「励まし合う仲間」とは何かを考える大きなヒントとなります。

(3)3冊目は、根井雅弘著「資本主義はいかに衰退するのか。ミーゼス、ハイエク、そして、シュンペーター」NHK ブックス 2019年8月25日刊です。終わることのないデフレの世の中をどのように考え、どのように生き残ったらよいのかを考えるヒントを、ミーゼス、ハイエク、シュンペーターは与えてくれます。特に参考になるのが、「イノベーション(新結合)」「企業者精神」「創造的破壊」などの考えを示し、今年で没後70周年を迎えるシュンペーターです。シュンペーターについては、根井雅弘著「シュンペーター、企業者精神・新結合・創造的破壊とは何か」講談社2001年10月15日刊がテキストとして最適です。同著は講談社学術文庫にも収められています。

\* 2020年は、シュンペーター没後70周年ですので、シュンペーターの代表的著作「経済発展の理論」「資本主義・社会主義・民主主義」の2冊を、ぜひ、ノートを取りながら、少しずつでも御一読ください。

(4)4冊目は、佐々木毅著「近代政治思想の誕生、16世紀における『政治』」岩波新書、岩波書店1981年9月21日刊です。クロード・ド・セセル、ニッコロ・マキアヴェッリ、トマス・モア、カルヴァンとその弟子たち、ミシェル・ド・モンテーニュ、ジャン・ボダンなど、16世紀を代表する6人の政治思想家の考えがよくわかります。佐々木先生から、古代から16世紀までの誰しも理解が難しいヨーロッパの政治思想を学ぶには、①同著「よみがえる古代思想、哲学と政治の講義1」講談社学術文庫、講談社2012年10月11日刊と、②同著「宗教と権力の政治、哲学と政治の講義2」講談社学術文庫、講談社2012年10月13日刊と、③この岩波新書の3冊を基本テキストとすることが最適と、最近になってようやくわかりました。ぜひ、この3冊を合わせて御一読ください。

(5)最後に、東京の経済同友会のメンバーである国際派ビジネスマンの多くが日頃読んでいる新聞と雑誌を御参考までに御紹介します。

①新聞は、The Japan Times とその中に入っている The New York Times です。

\* 先ほど御紹介したトーマス・L・フリードマン氏や経済学者のクルーグマン氏などのコラムは人気です。

②雑誌は、イギリスの経済週刊誌 The Economist です。オフィスや出先への移動中などに寸暇を惜しんで読んでいる方が多いようです。

③日本の雑誌としては、月刊誌「選択」です。

④2か月に1回発行のアメリカの「The Foreign Affairs」は、以前ほどではないにしても皆様お読みです。

\* 国際派ビジネスマンや世界で活躍したい高校生や大学生に図書館等でぜひ手に取って読んでみるように紹介してあげてください。

2020年1月9日(金)